



Organization for Clinical Rehabilitation with Advanced Science and Effective Education  
発行：NPO 法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED / 年 4 回発行 / 第 9 号 (2008 年 10 月 15 日発行)  
〒 560-0054 大阪府豊中市桜の町 3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL 06-6857-9640 URL : www.craseed.org



## 第 3 回 CRASEED フォーラム報告



平成 20 年 7 月 13 日(日)、兵庫医科大学の平成記念会館にて、第 3 回 CRASEED フォーラム「**そのお家安心して在宅介護ができますか!! あなたと家族のための住宅改修について**」が開催されました。暑い夏の休日にもかかわらず、会場には、総勢 110 名の熱心な方々に来ていただきました。講師は介護保険・バリアフリー・リフォームの住宅改修を専門に行っている「ミエちゃん工房」を主催する小多美恵子先生です。小多先生は、一般住宅の増改築はもちろんのこと、特に介護保険を適用したリフォームを主軸に、企画・設計・施工・監督管理までの一

貫したシステムの提供を行い、新しいビジネスモデルの構築を目指し活動されています。今回は、その小多先生をお招きし、第一部では、まず 90 分の住宅改修についての基調講演をしていただきました。

小多先生は介護保険での在宅改修の具体的な事例の一つひとつ丁寧に説明され、自らの所属する NPO 法人の紹介、そして施設での改修例という順にお話をされました。どのお話でも、理想的な改修を目指し、そのためには決して妥協すべきでないという厳しい姿勢が言葉の端々から伺われ、感銘を受けました。

その後、休憩をはさみ、第二部として、臨床の現場で住宅改修に関わっている 2 名のリハビリテーション専門職から、事例を発表していただき、その後、小多先生とフロアの方々を交えてのパネルディスカッションが行われました。まず始めに、関西リハビリテ

ーション病院の看護師の竹中直子氏から、住宅改修をしたものの、結果として患者様の十分な満足が得られず、うまくいかなかったと考えられた例を 3 例挙げ、次に、兵庫医科大学篠山病院の作業療法士の山下妙子氏から、篠山によくある土間のある家での改修例を 2 例、うまくいった例ともう一つうまくいかなかった例を紹介されました。どちらの発表でも、それぞれの職種での住宅改修へのかかわりのあり方について、積極的な姿勢を打ち出しておられ、非常に頼もしく思いました。

その後の意見交換は、お二方から小多先生への事例についての具体的な質疑・応答、またフロアからの質問・意見などが活発にかわされ、最後には小多先生から、今後も患者様のニーズに応えた、住宅改修に邁進する旨の決意を表明していただき終了となりました。開始から 3 時間半の長時間となりましたが、私を含め参加された方々にとって、住宅改修を学び・考えるよい機会になったと思います。

(松本憲二)

### 目次

- ① 第 3 回 CRASEED フォーラム報告
- ② 当事者からみた学会
- ③ 病院紹介：熊本セントラル病院リハビリテーション科
- ③ リハ職種紹介：臨床心理士
- ④ 書籍紹介、ADL 評価法 FIM 講習会、FA (Functional Assessment) 大会のお知らせ、会員募集





## 当事者からみた学会

2008年6月4日～6日の3日間、「第45回日本リハビリテーション医学会学術集会」がパシフィコ横浜で開催されました。今回は、リハビリを必要としている『当事者』という立場から、学会に参加された松岡葉子さんに、感想を伺いました。



《第45回日本リハ医学会学術集会でのCRASEEDのブース》

㊦

全日程、3日間に亘っての参加、お疲れ様でした。本日はよろしくお祈りします。

「こちらこそ、よろしくお祈りします。」

松岡さんは2007年の学会にも参加されていて、今回が、2度目の参加になるのですよね？

「はい、そうです。」

まず、参加する前の学会の印象とはどういったものだったか？

「初めて行った時は、みなさん難しい顔をされている方ばかりかと不安でした。」

では、実際に参加されてみての印象はいかがですか？

「実際にはそのようなことはなく……今回も、前回同様、窮屈な感じはありませんでした。リハビリ医療の向上のため、情報交換をされている場所なのだと感じました。」

今回の学会で、印象に残った研究、発表はありましたか？

「脊髄損傷の発表で、ラットが歩いている姿は医学進歩のためとはいえ、胸が痛みました。当事者の私がいかに知らないことのないシーンでしたので……」

確かに、研究者や医療従事者でない限り、あまりみることのないシーンですね。

「はい。でも、見えないところで、動物が犠牲になり、人間が試行錯誤し、研究してくれているんだと感じ、感謝の気持ちにもなりました。ただ、当事者向けのものではないので、そのシーン以外、ほとんど分かりませんでした。」

他に何か、印象に残った展示、発表などはあったでしょうか？

「友人の病状のポスター展示です。友人の事を話されているので、心境は複雑でした。」

では、当事者の立場から、研究を進めてほしいテーマはありますか？

「特に期待はしていませんが、神経再生医療の研究。当事者の心理状況のケアについて。そのあたりが発展すると良いと思います。」

今後、学会にどういったことを望みますか？ また、どういった点からそのように思われますか？

「当事者の参加が増えると良いのではないかと。各地から医療従事者が集まる会なので、情報交換ができるなど、双方にとって良いのではないかと思います。」

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

㊦㊦

学会なので、当事者にわかりやすくするという視点はないと思いますが、松岡さんのご意見の通り、何らかの形で当事者の声を吸収し、研究の方向付けをするようなセッションがあっても良いのではないかと感じました。（聞き手：三上圭子、道免和久）



**病院  
紹介**

**熊本セントラル病院リハビリテーション科**

当院は、熊本市と阿蘇山の中間付近にある熊本県大津町（面積約 99 km<sup>2</sup>、人口約 3 万）にあり、熊本空港から車で 10 分、九州自動車道熊本インターから 15 分と県内でも比較的交通の便に恵まれたところに位置しています。

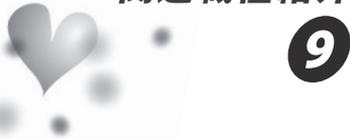
病床は 308 床（急性期一般 155 床、回復期 45 床、障害者 98 床）で、併設して通所リハ施設を持ち、急性期から在宅支援まで行っています。一日平均外来患者数 341 人、入院患者数 245 人、平均在院日数一般病棟 15.3 日、回復期病棟 72 日、障害者病棟 178 日です。リハビリテーション科は医師 4 人、理学療法士 17 人、作業療法士 14 人、言語聴覚士 8 人で、循環器以外の施設基準 I を取得し小児から高齢者までの幅広いリハ診療を行っています。一般病棟では、脳外科・整形外科の急性期患者を中心に早期リハ

を行っています。回復期では院内からの転棟以外に、近隣中核病院からの紹介患者もあり、一次救急病院と在宅との連携病院としても機能しています。また、急性期治療に難渋して回復期適応期限が過ぎてしまった方（高位頸損、頭部外傷、低酸素脳症、重度脳血管障害など）も障害者病棟で受け入れ、積極的にリハ施行し在宅退院を目指しています。スタック教育も熱心に取り組み、介護支援専門員、福祉用具プランナー、福祉住宅コーディネータ、呼吸療法認定士、糖尿病療養指導士、日本感覚統合学会認定セラピスト、レッドコードエクササイズセラピーベ



ーシックインストラクターなど、より専門性の高い得意分野の獲得を行っています。院内では摂食嚥下専門士養成講座やリハ看護養成講座を主催、院外ではケアマネージャーに対するリハ講座への協力や社協の介護教室協力など教育面での地域支援も積極的に取り組んでいます。（佐久川明美）

**リハビリテーション  
関連職種紹介**



**臨床心理士 (Clinical Psychologist)**

今回は臨床心理士の仕事をご紹介します。臨床心理士とは臨床心理学という学問に基づいて心理臨床を行う人々のことを指します。心理臨床とは人間の抱える色々な問題、とくに心の問題について、心理学的方法を使ってアプローチするという実践のことです。一口に「心の問題」と言っても中身は多様で複雑ですが、どのような問題であるかを本人が理解し、解決する力を身につけたり、解決の道を見いだしたりするのを援助するのが心理臨床の仕事です。

臨床心理士は、医療・教育・司法・産業・福祉など、さまざまな分野・領域で仕事をしていますが、リハビリテーション医療の中に臨床心理士が参加するようになったのは最近のことです。病気や事故で身体が自由に動かな

くなったり、障害が残ってしまうというのは、その個人にとっても、そのご家族にとっても大変なことです。中にはなかなか現状が受け入れられず、時には抑うつ的になる方もおられます。自分の身に起こった大きな変化を考えると当然の反応とも言えます。現状を受け入れ、失ったものを心から悲しみ、今までとは違った生活に対応し、新しい人生を歩み出す。これには時間が必要になります。しかし時間が経てば受け入れられるか、ということのように進まない場合もあります。自分の身に起きた喪失を受け入れることは想像以上に辛いことで、時には途中で投げ出してしまふことも起こります。そうすると抑うつ状態が続いたり、身体の不調や痛みとなって現れることもあります。そうならないように、心の痛みをあるがまま受け止め、逆に癒しの力に変えていくことが必要になってきます。時間とともに自然とそれができる



人はおられます。しかし、そのように進まない人もおられます。一人では喪失の辛さに向き合えないかもしれませんが、そこに一緒に立ち会う人がいると、立ち向かう勇気が湧いてくることがあります。心の痛みを語ることで新しい自分を作り直す作業を行う方のそばに寄り添う。それがリハビリテーション医療における臨床心理士の役割であると思います。（定政由里子）

参考文献：「臨床心理士への道」、馬場禮子、朝日新聞社

**BOGK**

**CI 療法**

編集：道免和久  
 中山書店  
 2008年6月発行  
 ISBN-10: 4521730272  
 ISBN-13: 978-4521730271  
 222頁 26cm  
 5,985円(税込)



またフィードバックのポイントについて、詳細な解説は非常に有り難かったです。また今まで持っていた疑問点(特に痙縮の問題、急性期病院、回復期病棟での具体的対応等)について余すことなく書かれており、かなりCI療法についての理解が

深まりました。

このように本書は非常に実践向きに書かれておりますが、単なる実践書と根本的に一線を画すのは、CI療法から見えてくる脳卒中をはじめとするリハビリ医療の矛盾点や問題点を挙げ、正当なりハビリ医療の再構築に向けて

の提言がなされている点です。改めて我々医療者は患者の何を向上させるべきか、という根源的な問題を考えさせられます。

道免先生をはじめとするCRASEEDの先生方のご尽力により、CI療法は少しずつ拡がり、多くの脳卒中治療に携わる医療者の知るところとなりました。しかし実際のCI療法を知らない者にとって(特にリハビリ科以外の医師)、いまだ未知の分野であり、患者を紹介するのも躊躇されるのが、実情であると思われます。本書がCI療法の更なる普及、および正当なりハビリ医療の再構築への第一歩となることを祈っております。

(兵庫医科大学篠山病院 島田真一)

篠山に来て間もない頃の出来事。外來に見覚えのある顔の方が入って来られ、<先生、久しぶりやなあ！>と。以前脳梗塞の治療を担当した方でした。聞けば転院先のリハビリ病院で、麻痺側上肢に対して十分なリハを受けることなく(本書で言うところの、どこかごまかされたような自立感(false sense of independence)の状態だったので)自ら調べ、篠山病院でCI療法を受けたとのこと。最大限の機能回復がなされ、喜んでおられる患者さんの顔を見て、幸せな気持ちを感じるとともに、これまで多くの患者さんを見送ってきたことに対する自責の念に苛まれました。

本書は改めて説明する必要はないと思われませんが、本邦初であるCI療法の教科書です。私自身これまで兵庫医大および篠山病院で、数多くのCI療法に携わり、多少なりとも勉強してきましたが、本書を読み、改めて本書のような教科書なしに勉強することの困難さを痛感しました。特に実際の臨床場面では、いわゆるshaping項目についての理解が困難であったため、佐野先生の書かれたCI療法の実際、および巻末の「佐野のshaping項目」、

**会員募集のご案内**

CRASEEDでは、下記の3つをメインにリハビリの普及啓蒙活動を行っています。皆様はもちろん、皆様のお近くでリハビリ医療にご興味のある方にも、是非ご参加くださるよう、声をおかけください。(趣旨に賛同される一般市民の方も参加できます。)

- ① **リハビリ医療の普及啓蒙**  
 CRASEED ホームページ、会員向け会報 公開フォーラム、電話相談
- ② **専門的知識の普及とレベルアップ**  
 医療従事者対象セミナー(入門～応用コース、理論～実践コース)、多施設共同研究、その他の教育研修事業
- ③ **リハビリ医療関連情報の提供**  
 CRASEEDのノウハウを駆使した情報発信(リハビリパンフレット、カルテシステム)、各種情報とのリンク

**《連絡先》**

〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1  
 関西リハビリテーション病院内  
 TEL 06-6857-9640 FAX 06-6857-9641  
 Mail: office@craseed.org

**ADL 評価法 FIM 講習会**

今年は、同一内容で2回開催します  
 《土曜の午後》、《日曜の午後》

【日時】どちらかお選びください。

2009年1月31日(土)

午後13時30分～17時30分(予定)

2009年2月1日(日)

午後13時30分～17時30分(予定)

【会場】兵庫医科大学平成記念会館  
 (阪神本線武庫川駅)

【内容】FIM(機能的自立度評価法) ver.3.0の評価基準:具体例をわかりやすく解説いたします。今回は初心者を対象に設定しました。初めてFIMを勉強される方が対象です。FIM総論、運動項目、認知項目に分けて、今までの講習会を更にバージョンアップし、丁寧になりやすく、解説いたします。

【申込方法】1人1枚、メール(office@craseed.org)または往復葉書に、ご希望コース、お名前、御所属、御職種、連絡先住所、日中連絡が可能な電話番号をご記入のうえ、下記にお送り下さい。追って、参加可否、受講料振込先などをお知らせします。受講料の振込みをもちまして、お申込みを受理いたします。また、受講料は返金いたしかねますので、ご了承下さい。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

※ ADL 評価法 FIM 講習会参加の方は、参加日の記載をお願いいたします。

※ コース:① FA 大会のみ(2月1日(日) 9～12時に同時開催)、② ADL 評価法 FIM 講習会のみ(参加日もお忘れなく)、③ FA 大会及び ADL 評価法 FIM 講習会(参加日及びお弁当のご希望有無をお忘れなく)

【参加定員】600名

【受講料】5,000円(日曜日午前中予定のFA大会と合わせてご出席の方は、昼食ご希望の方は昼食含め合計8,000円、不要の方は7,000円)

【申込開始】2008年12月1日

【申込締切】定員になり次第締切

【主催】兵庫医科大学リハ医学教室

【共催】特定非営利活動法人リハビリ

テーション医療推進機構 CRASEED

【代表】道免和久

【事務局】兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 ADL 評価法 FIM 講習会事務局(木村、三上)

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

TEL: 0798-45-6881(直通)

FAX: 0798-65-6948

E-mail: office@craseed.org

+++++

**FA (Functional Assessment) 大会**

【日時】: 2009年2月1日(日)

午前9時～12時(予定)

【場所】兵庫医科大学平成記念会館

(阪神本線武庫川駅)

【内容】1. FIMに関連した演題発表、2. 小山哲男先生による特別講演「脳卒中患者の日常生活動作と生活設計について」

【参加費】3,000円(1月31日または2月1日午後に行われますADL評価法FIM講習会と合わせてご出席の方は、昼食ご希望の方は昼食含め合計8,000円、不要の方は7,000円)

【申込方法、他】ADL評価法FIM講習会と同じ

【事務局】兵庫医科大学リハ医学教室

【演題募集】FIMに関連した研究に関する演題を募集します。職種を問わず、どなたでも応募可能です。

演題の例:脳卒中におけるFIMの年齢別予後予測、職種間で採点誤差が開きやすい項目、高齢者の在宅復帰を可能にする退院時FIM得点の最低ライン等  
 【演題申込方法】以下の内容をメールで、添付ファイルとしてご送付ください。折り返し連絡いたします。

①所属、②筆頭演者(職種)、共同演者(職種)、③タイトル、④発表抄録800字以内・図表不可、⑤筆頭演者連絡先  
 【演題申込先】office@craseed.org

【演題申込締切】12月1日

